



## 岩見沢市

# — ドカ雪 —



「あのマチこのムラ地域おごし活躍中」は道内の会員市町村を一巡以上したので終了させていただきました。

新連載として「わがマチの自慢」と題し、地域の開拓史、史跡、特産物、活動など対象を問わず、特色のあるものを話題として紹介していきます。

第一回は国から特別豪雪地帯の指定を受けている岩見沢市の『ドカ雪』を取り上げます。降雪や雪害は岩見沢市に限ったことではなく、また、災害になるほどの降雪は人命を奪ったり、ライフラインを切断する恐ろしいものでもあります。しかし、この『ドカ雪』という言葉から受ける諸々の否定的なイメージを払

表1 岩見沢市 降雪・積雪と除排雪経費の状況  
(岩見沢市「冬の暮らし ガイドブック」より)

年度	総降雪量	最大積雪深	決算額
H15	788cm	131cm	6億4,587万円
H16	798cm	135cm	6億2,393万円
H17	841cm	165cm	7億4,008万円
H18	489cm	97cm	6億1,554万円
H19	620cm	113cm	8億3,921万円
H20	546cm	64cm	6億7,880万円
H21	697cm	98cm	7億8,429万円
H22	632cm	133cm	10億5,819万円
H23	1,040cm	208cm	20億4,075万円
H24	877cm	164cm	13億7,696万円

表1は岩見沢市の冬の降雪、積雪等の状況を年度別にみたものである。表2の札幌市と旭川市の降雪量と比較すると、岩見沢市のそ

1. とめどなく積もる雪、この雪はいつになったら止むのだろうか？  
— 岩見沢市の積雪の状況

拭し、利用できるもの、誇れるものに変えていきたいとの思いから提案します。それは我々の心の中の有り様によって可能なのではないのでしょうか。

表2 年間降雪量の比較 (気象庁・気象データより)

寒候年	岩見沢	札幌	旭川
2004	788cm	397cm	624cm
2005	798cm	617cm	660cm
2006	841cm	574cm	685cm
2007	489cm	543cm	570cm
2008	620cm	423cm	601cm
2009	546cm	492cm	679cm
2010	697cm	485cm	737cm
2011	632cm	490cm	515cm
2012	1040cm	399cm	559cm
2013	877cm	628cm	576cm
平均値	733cm	505cm	621cm

各市それぞれ変動はあるが、2012、2013寒候年の岩見沢、2013寒候年の札幌が突出して多かったのがわかる。

れが突出しており、「ドカ雪」といわれる所  
 以であろう。市民は雪かきにおわれ、雪の捨  
 て場所に困り、背丈を超えるほど積まれた雪  
 山に圧倒される。ただでさえ日照時間が少な  
 く、季節性感情障害（反復性冬季うつ病とも  
 呼ばれる）の傾向にさらに憂鬱さが増幅され  
 る人も多いであろう。

また、激しく吹雪く荒天は恐怖をもたら  
 す。子供の頃は、吹雪で学校が休校になっ  
 たり、集団下校をしたり、通学路の歩道が家の  
 玄関より高くなっており、ちょっとした雪山  
 の冒険をし、じゃれあったりして、とにかく  
 楽しく懐かしくさえある。しかし、大人にな

るとそうはいかない。

雪はホワイトクリスマスという言葉がある  
 ように、時にロマンティックであり、綺麗で  
 清らかなイメージを併せ持っているが、雪国に  
 住むものにとっては、生活を圧迫し、気分が  
 滅入り、不安を募らせ、忌み嫌うべきものと  
 なる。しかし、この冬の雪は岩見沢において  
 は避けて通れないものでもある。例えば、日  
 本海に低く垂れこめた鉛色の雲が疎ましく、  
 故郷を離れた人がいるかもしれない。その疎  
 ましい雲が一掃されるや、まれにしか見るこ  
 とができない素晴らしい夕陽に魅了され、故

(岩見沢市「ドカ雪祭り」と各アトラクション)



郷に残る人もいるかもしれない。雪国において、この「夕陽」に代わるもの、冬の困難を楽しいものに替える工夫はないものだろうか。岩見沢市においては、冬のイベントである「ドカ雪祭り」、ウインタースポーツなど屋外レジャーを楽しむ機会も多いのだが…。

## 2. なぜ、雪が岩見沢市に集中するのだろうか — 降雪の要因

岩見沢市が大雪となる原因は種々あるようであるが平成三年一月七日から一〇日の降雪は以下の通りである。「一月七日から一日にかけて、北海道の上空約五、〇〇メートルではマイナス四〇℃前後（平年より六℃前後低い）の強い寒気が入り続けたために、雪雲は活発になり発達した。また、発達した低気圧が、オホーツク海で停滞し、北海道は等圧線の走行が北西となり、日本海側は西北西の風が長い間、吹き続けた。このことにより、活発な雪雲は石狩北部から南空知へ入り、同じ地域で局地的に強い雪が持続して降り、

自治体の除雪体制が追いつかないほどの大雪が継続した。」（札幌管区気象台提供資料より）

また、平成三年十二月十一日から一二日にかけての大雪は「札幌管区気象台によると、ロシア極東の日本海沿いに面した地域にあるシホテアリニ山脈周辺に雲の発生しやすい場所があり、その雲が南東方面に吹く季節風に乗って次第に一本の筋状の雪雲に発達。約四〇〇km離れた北海道に到達した雲は、夕張山地にかつかり、岩見沢周辺で大雪を降らせたという。」（平成三年十二月十三日付北海道新聞）とのこと。

以上は災害になるほどの大雪が降った例であるが、西高東低の気圧配置及びオホーツク海に低気圧が停滞し、寒気団の南下する条件が重なった場合に、傾向として、西寄りの風が吹くと旭川など内陸部で雪が多く、北寄りだと札幌、西北西だと岩見沢や石狩が降雪の中心となるそうである。加えて、積丹半島古平の崖に低い雪雲が当たり、江別市、岩見沢市方面に雪をもたらす地形要因もあるとのこと。

しかし、平成二六年二月に南岸低気圧の発達による暴風雪が関東甲信と東北に記録的な大雪をもたらした。四日目に入っても六都県九千人以上が孤立し、甲信では車の立ち往生が続くなどの大被害があり、最近の気象変動の激しさにより、大雪の被害対策は豪雪地帯以外にも必須となった。

## 3. 冬の暮らし — その対策は？

### (1) 雪かき

行き当たりばったりで、手前から積み上げていく人がいるがこれでは雪の捨て場所がすくなくなってしまう。多少の雪捨て場所がある場合は、奥の方からじっくり雪の捨て場所を作りながら捨てるのがポイントである。よく共同住宅などで、手前から積み上げていく人を見かけるが、雪国の人ではないのだなとすぐにわかってしまう。

また、住宅地等で見かねるのは、道路にありのままのように雪を捨てる人がいることである。道路に捨てた雪は国や自治体が除排雪



(雪捨て場となってしまう公園)



(川に捨てられた雪)



(狭くなった住宅地の道路)

するのが当たり前だと思っっているのだろうか。捨て場所がないから仕方がない、許される行為だと思っっているのだろうか。こういう人に限って、自分の家の敷地内は全く雪がなく、整然とすっきり綺麗にしているものである。これでは道路の雪をせっかく排雪したのに、すぐにまた雪が溜まり、道が狭くなり、対抗車がかわすのも一苦勞となってしまうのである。道路に雪を捨てるのは違法行為だと、周知徹底し、悪質なものは取り締まる必要もありそうである。

また自治体の除排雪作業も除雪だけ、排雪する場合もすっきり排雪する場合と車道だけ

の場合とがあるようであるが、除雪だけの場合に、雪を深く削って行くが、広く除雪していかないの、これも道路をすく狭くしてしまいう原因である。

誰しも不満に思っているのは、玄関前、車庫の前に重く硬い雪の塊の山を置いて行かれることである。これは致し方ないのである。除雪車のオペレーターは操作部の激しい振動のため白蟻病になる人もいるそうである。重労働で大変であるが、日によってきれいに雪を持って行ってくれるオペレーターもいれば、これ見よがしにドサツと雪を置いていくオペレーターもいる。オペレーターに暖かい飲み

物などを差し入れする人も見受けられる。また、個人で業者と契約し、取り払ってもらっている人もいる。

また、道路ではなく川に捨て、それが融けて洪水となり、問題となった地域もある。

## (2) 自動車の運転

車に乗る前には雪をしっかりと落として始動すべきである。フロント・ウィンドウをワイパーで雪を払うだけ、走りながら雪を落ちるに任せる無頓着、怠惰なドライバーが結構いるが、視界が悪く自らを危険にするばかりでなく、交通の障害となったり、後続の車の迷惑になるので是非励行してほしい。酷い人になると、自分の敷地から離れた道路の真ん中で、人の家の門前であろうと所構わず、大量の雪を払い落としていく呆れた人がいる。これなども道路に雪を捨てるのは違法行為だという認識を持ちたいものだ。

## (3) 屋根の雪下ろし

屋根の積雪が多くなると、家屋の倒壊の恐れ、落雪や雪庇などができ危険となるため、

雪下ろしが必要になってくる。事故を未然に防ぐよう万全を期し、命綱など念には念を入れて安全を図っていただきたいものである。岩見沢市では、安全帯、ロープ（金具付き）、ヘルメットの雪下ろし三点セットを貸し出している（岩見沢市「冬のくらし」ガイドブック）：岩見沢市HPで閲覧可。



(冬のくらしガイドブック)

(4) 農業施設の被害を避けるために

豪雪は農業施設にも被害を及ぼす。事前の防止対策をとりつつも表3の様な大きな被害がJAいわみざわ管内に出た。JAいわみざわでは、このことを教訓として

ハウスについては、

①たまねぎの育苗ハウスや一部花卉ハウスの越冬ハウス以外のハウスについては、ピ

ニールを外し、骨組みだけにする。  
 ②大雪のおそれがある年や毎年吹きたまりになるなど雪がたまるころは骨組みも撤去する。  
 ③②以外の骨組みだけのハウスについても倒壊しないよう除雪の徹底を図る。

農舎等については、

④施設回り等のこまめな巡回により、早めの除雪対応の徹底を図るとともに、雪庇についても十分に注意する。  
 ⑤除雪作業をするにあたっては、安全ロープの装着や必ず二名以上で実施するなど事故防止対策の徹底を図る。

⑥定期的に屋根のペンキを塗るなどの補修作業をかかさない。  
 などの指導を行っているとのことである。

また、待ち遠しい春耕作業に向け、適期に融雪剤の散布作業をするようファックス等で情報を発信し、啓蒙

表3 JAいわみざわ管内の農業被害の状況 (JAいわみざわ提供資料)

平成23年1月の降雪による被害	平成23年12月～24年3月の降雪による被害																								
<p>この年については、23年1月8日～18日までの間に降雪量で208cmとなっております。</p> <p>被害状況</p> <table border="1"> <tr><th>項目</th><th>件数</th><th>棟数</th></tr> <tr><td>ハウス</td><td>67</td><td>119</td></tr> <tr><td>牛舎</td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr><td>格納庫</td><td>16</td><td>16</td></tr> <tr><td>計</td><td>85</td><td>137</td></tr> </table> <p>事業による申請事業費～ 97,304千円</p> <p>・復旧に関する支援 (JA 他関係機関により実施)</p> <p>1. ハウス設置に関する援農の実施                      支援件数～21件                      延べ日数～42日                      延べ人数～505人</p> <p>2. 廃棄ビニール処理の費用負担                      利用件数～24件                      回収処理～7,490kg</p>	項目	件数	棟数	ハウス	67	119	牛舎	2	2	格納庫	16	16	計	85	137	<p>この年については、24年2月12日に過去最高の積雪量208cmを記録し、年間降雪量も1,040cmとなっております。</p> <p>被害状況</p> <table border="1"> <tr><th>項目</th><th>件数</th><th>棟数</th></tr> <tr><td>ハウス</td><td>438</td><td>1,278</td></tr> <tr><td>計</td><td>438</td><td>1,278</td></tr> </table> <p>ハウス事業による申請事業費～649,818千円                      融雪材助成事業費関係～1,017件 201,443千円                      果樹被害助成事業費関係～15件 8,363千円                      エゾシカ侵入防護補助成事業費関係～6件 1,247千円</p> <p>・復旧に関する支援 (JA 他関係機関により実施)</p> <p>1. ハウス設置に関する援農の実施                      支援件数～31件                      延べ日数～28日                      延べ人数～375人</p> <p>2. 廃棄ビニール処理の費用負担                      利用件数～7件                      回収処理～3,339kg</p>	項目	件数	棟数	ハウス	438	1,278	計	438	1,278
項目	件数	棟数																							
ハウス	67	119																							
牛舎	2	2																							
格納庫	16	16																							
計	85	137																							
項目	件数	棟数																							
ハウス	438	1,278																							
計	438	1,278																							

を行っているとのことである。

## (5) 暴風雪への対策

北海道開発局・札幌管区気象台・北海道・(独)土木研究所 寒地土木研究所にて企画制作したパンフレット『できていますか? 暴風雪への備え!』がある。内容は、

・「暴風雪が発生しやすいとき」

発達した低気圧の通過や強い冬の気圧配置の時に暴風雪が発生することが多く、天気図では等圧線の間隔が狭くなっている。

・「暴風雪による被害の特徴」

吹きだまり、暴風や視界不良による歩行困難、暴風による飛散物、停電などに注意

・「暴風雪による被害に遭わないために」

今の天気が良くても油断することなく、気象情報、道路情報に注意し、暴風雪が予想さ



(パンフレット)

れているときは、無理をせず外出を避ける。

・「日常から暴風雪に備える」

家、車の常備品について

・「もしも暴風雪に遭遇してしまったら…」  
歩行中や屋外で作業中のとき、家の中にいるとき、車を運転しているときの安全対策となっている。(パンフレットは上記各機関で入手可能。また各機関HPで閲覧可能)

しかし、何よりも肝心なことは、暴風雪が予想される日は出掛けないことである。どんなに大切な用事があろうとも、命があつての物種なのだから…。自分だけの命ではないのだから。人生において、今だけでなく、将来もあるのだから。

社会は冬の暮らしに対する鷹揚なコンセンサスをもつべきであろう。

## 4. 雪と親しむために — 提案

雪の利活用については、米などの雪冷保管や冷房機能等として活用されている事例があるが、その他雪の利活用、雪国の暮らし方等

について提案してみたい。

## (1) 地産地消ならぬ地・地・生の提案

### 《地域内で無理をしないコンセンサス》

地域の気象状況に順応した地域の中での生活の仕方、急がない生活時間の取り入れ、サマータイムならぬウインタータイムの導入はどうだろうか。夏場と同じ感覚で仕事、生活をするのは不可能と納得し、生活のテンポを落とし、無理な計画を立てないような冬季における生活様式の創造、行動、常識の見直しを図ることが必要なのではないだろうか? 許される範囲の程度問題もあろうが、平成二五年三月二日から三日に網走・根室地方で五〇台以上の車が立ち往生し、中標津町、湧別町などで死者九名が出た暴風雪による事故を思い出す度にいたたまれなくなるのである。同じ視点では語れないのかもしれないが、一九七〇年代以降、二宮金次郎像が歩きながら本を読むのは危険などとの意見が多く出、撤去されたように、時代背景や考え方の大勢によつてはこのような考え方が認知される可能性はないであろうか。地域全体で検討してい



(住宅地にある私的な人力の雪捨て場)

く必要がある。

## (2) インフラ整備《道路などへの雪捨て対策》

岩見沢市では、住宅地における雪処理対策として、除雪業者が重機で雪を押し込む新たな地域雪堆雪場（雪押し場）として利用可能な用地（空き地など）の無償提供を募集している（冬のくらし ガイドブック）。このこ

とも必要であろうが、民家の雪捨て場所がない現状を鑑みると、個人が人力により捨てられる公共の雪捨て場が住宅地に点在すると便利であり、インフラ整備、あるいは今後の街作りの方向として一考を要するのではないだろうか？町内会共同の融雪設備もいいかもしれない。

## (3) 除雪ボランティア《労力の支援対策》

岩見沢市及び岩見沢市社会福祉協議会では、除雪ボランティアを募集し高齢者世帯への支援活動を行っている。参加するには事前の登録等が必要になる（社会福祉法人 岩見沢市社会福祉協議会HP）。

また、岩見沢市に限定されないが、「ボランティア活動による広域交流イノベーション推進研究会」（札幌）が運営する札幌発雪はね奉仕ツアー（バスツアー）の岩見沢市美流渡地区での活動が平成二六年二月一日付北海道新聞に紹介されている。同ツアーはスタッフを含め二〇代から五〇代の男女三八名が参加し、一日がかりで除雪奉仕等に汗を流した

そうである。今冬は岩見沢市、三笠市、倶知安町などで計九回のツアーを計画し、「地域内で助け合うのは難しい現実があり、広域的な助けが必要。冬だけでなく夏にも地域との交流を続けたい」（同研究会事務局長）とのことである。

今年三月に閉校となった駒澤大学付属岩見沢高等学校野球部員たちが毎朝、ボランティア活動として近隣の住宅地を除雪している様子がかつてNHKニュースで放映していた。

地域内にいる比較的時間の余裕があり、体力のある人たちに協力していただき、事前登録などあまり制約のない形で奉仕活動をしていただける仕組み、事例ができないものだろうか？

## (4) 雪かきはスポーツ《冬の恵まれた環境を活かす―発想の転換》

雪かきの作業に入る前、三分ほどの準備体操をしておくと札幌市の主導で「雪かき体操」が誕生した。「冬にしかできない運動と捉えて、毎日の雪かきを前向きに取り組んでほしい」と、さっぽろ健康スポーツ財団の



高橋睦子さんが考案したとのこと。

「国際スポーツ雪かき選手権」（平成二六年一月二五、二六日小樽市）という新しい試みを小樽商工会議所青年部など市民有志でつくる実行委が企画した。「スポーツの力で高齢化に伴う除雪問題を解決し、地域の活力再興と交流促進を実現しよう」との趣旨で、道内外から一九チームが参加し、二日目に坂の多い住宅街で除雪ボランティアに参加することを条件とし、地域の雪質等実情も分かかってもらえるよう工夫したとのこと。「雪を資源として生かし、来年も盛り上げます」（実行委員）と意気盛んである。

二〇一三年度から札幌市教育委員会が札幌市雪対策室と連携し「さっぽろっこ体力向上推進事業」として、ゲーム感覚を取り入れた「雪かき汗かきチャレンジ」という取り組みを実施している。外で運動する機会が減少する冬期間に、子どもの体力向上を図るとともに、自宅や地域のゴミステーション、消火栓などの除排雪を促進することを目的としている。（以上、主に平成二六年一月三〇日付北海道新聞「探る見るさっぽろ十雪かきはス

ポーツだ」より）

以上、さまざまの新たな取組み事例のように、運動不足解消のためにも冬は積極的に外へ出る、ウインタースポーツを楽しむというのは勿論のこと、今までいやいややっていた雪かきをスポーツと心得るといえるのはどうだろうか？健康管理にもダイエツトにもかなりの効果が期待できる。雪かきをスポーツとするのだから、無理をせず、少しずつ、その日のうちに全部やりきれなくてもがっかりせず、見栄を張らず、競わず、残りはまた次の日にやればいいと気楽に構えればできそうである。晴耕雨読ならぬ晴・除・雪・読の提案である。

さて、つたない雪に対する提案でありましたが、これに関する読者諸氏の意見、アイデアを募集します。形式自由、郵便、電子メールの媒体も問いません。斬新なアイデア等をいただきましたら次号にて紹介させていただきます。当研究所宛て宜しく願います。（住所およびメールアドレスは巻末の「DATAFILE」を参照願います。）

〈取材後記〉

冬は日光を浴びる時間が減少するため、体のしくみ上、睡眠不足になり、うつ症状を呈する傾向があるそう。岩見沢市民はもとより豪雪地帯に住む人たちにとって、『トカ雪』という言葉を聞くとさらに憂うつになるだろうが、そういう時こそ少しでも元気をと、今回は岩見沢市の『トカ雪』をテーマとして取り上げた次第である。

一般社団法人 北海道地域農業研究所

特別研究員 西野 義隆